

平成30年度版 改善計画

学校名： 山梨県立日川高等学校

No	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	参加者を見直すなどスリム化を進める。2つの会議を重ねて会議のない日を作る等の工夫は継続的に行われている。職員会議は資料に事前配布を行い、なるべく説明を端的にしている。 引き続き会議の回数や時間を縮減していく必要がある。	可能な限り行事予定表に週1回程度は空白があるように会議を配置する。 各会議が必要な回数、必要な人員で行われ、予定時刻とおりに終わるようにする。	① 検討事項が少ない場合は会議を重ねる、月間行事予定の段階で削減を検討する、構成メンバーも必要に応じて臨機応変に減らすなど引き続き会議のスリム化を進める。資料の事前配付を進め、細かい説明は避け予定時刻に終了するよう運営する。 ② 会議によってはClassiを利用して資料配付で済ますなど、ICTの活用を検討する。	
2	学校行事の負担軽減	平成30年度は土・日に行う行事を減らす方向で、年間行事予定を策定した。生徒募集に関する行事が増えているが、志願者増につながっており達成感を得られている。 本校の特徴として、同窓会関係の行事が多い。 新入生オリエンテーションや強歩大会など伝統的な行事は生徒への教育効果も大きい。	強歩大会など大きな行事では、引き続きPTAや同窓会の協力を仰ぎながら効率的な運営を心がける。 行事をバランス良く配置すると共に、休息が適切にとれるような行事予定を策定する。	① 行事ごとに労力と教育効果を検討し、必要性を検証していく。アンケートを取った場合は結果を職員会議等で報告させ、日の高いうちに改善に向けた検討を始める。 ② 行事予定を作る段階で、なるべく負担感の少ないものにしていく。週休日の行事を削減すると共に、やむを得ず週休日に行事を打つ場合は、代休の設定を直近とする。	
3	校内組織の見直し	定員減により教員定数が減る中で、分掌の統合を進めてきた。平成30年度は委員会が14、分掌は9である。部活動は山岳部が休部となり、運動部が23、文化部が17である。部活動の副顧問は複数の部を兼任する状態である。	分掌や委員会の整理や構成員の見直し、部活動の精選や顧問配置の工夫等により、職員の数に応じた校内体制を構築する。	① 学校の課題を検討する「企画戦略会議」で、多忙化の解消に向け積極的に議論する。 ② 分掌や委員会等の再編整備を引き続き検討する。前年踏襲で検証されずに残っている業務を洗い出し、目的が達成されたものや時代にそぐわないものは積極的に縮小或いは削減を検討する。部活動については部員数の推移を見ながら、将来的に存続が難しい部を見極める。	
4	業務の効率化	熱心な教員が多く、平日は8時以降まで残る職員もいる。また、土曜サブリや模試の監督など、休日に出勤して業務に当たる姿がある。 全校体制になったClassiの活用が進み、生徒連絡やアンケート集計などが効率的に進められるようになりつつある。	教員間の協働性を高めると共に、Classi等のICTを積極活用することで作業効率を上げ、平時は遅くも8時を目処に最終退校できるようにする。	① 会議資料や提出文書等のペーパーレス化を進め、印刷・配布・回収等に掛かる労力を削減する。面談等を通じ職員の勤務状況や要望を管理職が把握する。 ② 教材やクラス経営のノウハウ等の公開により職員の協働性を高めると共に、デジタル教材の積極活用を進め、教材作成等に掛かる時間を短縮する。	
5	部活動の負担軽減	強い弱いに関係なく学校全体に部活を頑張る空気があるため顧問の指導にも力が入る。 一方で、従来より毎週月曜日は部活動を休む日として定着している。平日の下校時刻も最終7時を目指して取り組んでいる。	月曜日部休を継続すると共に、オフシーズンの土日の片方休みを実現していく。 平日2時間練習を実現すべく、短時間で効率的な練習を心がけ生徒及び顧問の時間を確保する。	① 「きずなの日」だけでなく毎週月曜日は部活動を休むことを徹底し、業務の計画的な履行を呼びかける。主顧問と副顧問、外部指導者の連携により、休日練習の指導監督業務のシェアを図る。 ② 生徒の最終下校時刻は7時を徹底し、本校の合い言葉である4時間勉強2時間練習を目標に、活動にメリハリを付け、試合期以外は6時半活動終了を心がけ、原則7時最終下校とできるよう体制を整える。	
6	地域人材の活用	部活動においては外部コーチとして、本校のOBを積極活用している。またSSHの事業についても、積極的に地域の施設や人材を活用し、効果を上げている。ただ、連絡調整等には手間を要する。 強歩大会では、PTAの積極的な協力を得ている。	保護者や同窓会、地域の人材の力を有効に活用し、職員の負担軽減を図る。	① 引き続きPTAや同窓会との連携を密にする中で、協力が得られやすい雰囲気を作っていく。 ② 外部指導者との連絡調整が部顧問の過重負担にならないよう、分掌や管理職が関わっていく。	
7	ICTの積極活用	家庭学習時間の管理はClassiの活用により省力化が進みつつある。大学入試改革に伴って、生徒個人の学びの記録などの蓄積を進めていく必要がある。	ICTを積極的に活用し、生徒個々のデータを担任がまとめる作業をできる限り削減する。生徒のポートフォリオ蓄積を進め、将来の出願に係る職員の事務作業の軽減のための準備を進める。	① 全学年がClassiを利用できる利点を活かし、家庭学習時間の報告や学びの記録、その集計をWEB上で行うことで、担任が一覧にまとめる手間を省く。 ② 将来の校内LANの整備を念頭に、まずは教員がICTを使いこなせるように研修を積む。	